

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	1	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名								石川 和美			
				必修・選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
ITリテラシー											
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
大学、専門学校、企業、PCスクールでOffice系資格対策講座の実施経験があり、有資格者の教員が授業を実施します。Windows(ハード)で、MicrisoftOffice(Word=効率が良く効果的な文書作成する。Excel=様々な計算処理を行い必要書類を作成し、また顧客のデータを管理する。PowerPoint=プレゼンテーションを作成し発表する。)将来の仕事で活用するだけではなく、学生生活において様々な学習にも活用出来るように学習していきます。											
〔到達目標〕											
学習を通し、社会へ出た際、どのようなジャンルの仕事であっても、事務処理に困らないためのスキルを習得します。操作をマスターし、さらに機能の理解を深め、将来自分自身の仕事に役立つ使い方が出来るよう学習していきます。											
〔使用教材、参考文献等〕											
随時、必要に応じてプリント配布											
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	Wordの基本操作 文書作成の基本的な流れ 範囲選択コピーと移動 書式設定 ファイルを保存する					書式設定を活用し、文書を作成する事が出来る。 作成した文書の保存が出来る。					
2	表現力をアップする機能(画像の挿入と編集) 文書の印刷・表作成機能					文書に画像を挿入し、編集が出来る ページ罫線を配置し文書を装飾出来る 学習した機能を利用しチラシを作成出来る 作成した文書を印刷出来る					
3	ページ設定(用紙サイズの設定・余白の設定・印刷の向きの設定)ハガキ作成 (小テスト)					必要に応じて、用紙サイズや余白、印刷の向きを設定出来る。学習した機能を利用し、指定された各種はがきを作成出来る(販促・お知らせ)					
4	Wordの図形描画機能を理解し操作が出来る。 簡略地図を作成する／館内案内図を作成する					図形描画機能がわかり、自由に操作が出来る。 学習した機能を利用し、簡略地図が作成出来る／館内案内図を作成出来る					
5	表作成(小テスト)					Word機能で表作成と編集が出来る					
6	ビジネスメールの作成① ビジネスメールのマナーとメールの作成・送受信					ビジネスメールのマナーと正しいレイアウトがわかりメールを作成する事が出来る					
7	ビジネスメールの作成② 好感を持たれるメールの作成と送信・返信・転送					相手の状況に応じた気遣いのあるメールの文章を作成出来る/返信・転送のマナーがわかり、正しいマナーでメールを作成し送受信できる					
8	ビジネスメールの作成③ 添付ファイルのマナーとメールの活用(小テスト)					添付ファイルのマナーがわかり、正しいマナーでメールを作成し送受信できる					
9	Excelの基本操作 表の作成と、関数の基礎(SUM関数/AVERAGE関数/MAX関数)					四則演算が出来る 基本の関数を活用出来る (SUM/AVERAGE/MAX関数)表に桁区切りを設定出来る。表の書式を自由に変更する事が出来る(線の種類・セルの色・配置)					
10	表の作成と、関数の基礎2(COUNT関数/IF関数/RANKEQ関数)					関数基礎2 使用頻度の高い関数を活用する					
11	グラフを作成する グラフ構成要素の書式の設定方法					どんな分析にどのようなグラフが必要かがわかる(棒グラフ・円グラフ・折れ線グラフ)入力したデータから簡単な操作でグラフを作成出来る					
12	テンプレートの活用 (小テスト)					テンプレートをダウンロードし活用する					
13	PowerPointの基本操作 PP課題作成①					プレースホルダの編集・アニメーションの設定・ノートペインの入力が出来る。PowerPointで課題を作成出来る①					
14	PP課題作成② (小テスト)					PowerPointで課題を作成出来る② 課題を完成出来る					
15	期末試験実施					期末試験として課題を提出出来る。課題の発表が出来る。評価と評価の解説を実施する。					
〔評価について〕 期末試験50% 小テスト50%で59%以下を不合格とする					〔特記事項〕 2回目以降、毎回10分間のタイピング練習を行い、タイピングスキルを鍛えて、ブラインドタッチの習得を目指します。 ブラインドタッチは全てのPC作業を効率よく出来るため、マスターしたいスキルです。ぜひ積極的に参加してください。						

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	2	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名								中島 圭吾			
運動学(前期1～15)				必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	60(4)	授業回数	30
〔授業の学習内容と心構え〕 運動学に必要な力学・運動器の構造と機能に関するキーワードを覚え、人間の身体に運動が生じるメカニズムを関節ごとに理解していく。また、人間の基本的動作(起居動作、歩行動作など)のなりたち、異常が生じた場合の現象も理解する。理学療法の実務経験のある教員が、基礎的用語から徐々に解説を進める。解剖学・生理学の授業と共にきわめて重要な基礎科目であることを理解し、学習してほしい。											
〔到達目標〕 ・人間の動作を観察・説明する際、運動学専門用語を正確に使うことができるようになる。 ・解剖学で学んだ構造の知識を元に、歩行動作を中心に起居動作の特徴を説明できるようになる。 ・力学の知識をもとに、身体の方法の基本、障害発生時の問題など説明できるようになる。											
〔使用教材、参考文献等〕 基礎運動学第6版補訂中村隆一他著(医歯薬出版) Teamsにて資料データ配布						〔準備学習・時間外学習〕 基礎科目である解剖学(筋骨格系)の知識が必須となるため、解剖授業の予習復習を徹底すること。基礎的な算数・数学の知識(三角関数・比率など)を復習すること。					
回	〔授業概要〕 月曜2限,水3限 開講					到達目標(できるようになること)					
1	4/11 オリエンテーション 運動学の基礎1 身体部位・関節の名称					運動学の構成する知識を知る。基礎としての身体部位名称を知り、理解できる。					
2	4/13 運動学の基礎2 身体運動の面・軸					身体運動の面・軸の名称を理解し、説明することができる。					
3	4/18 運動学の基礎3 関節運動の名称と可動域(1)					関節運動の名称と可動域(頸部・体幹)について理解し、説明することができる。					
4	4/20 運動学の基礎4 関節運動の名称と可動域(2)					関節運動の名称と可動域(上肢・下肢)について理解し、説明することができる。					
5	4/25 運動学の基礎5 姿勢と肢位について					姿勢の定義を理解し、それぞれの姿勢の名称を答えることができる。安定した姿勢の条件を説明できる。					
6	4/27 重心と骨の構造					人体の重心について説明することができる。骨の基本的な構造を理解する。					
7	5/9 運動器の構造と機能 骨・関節・筋の名称と機能					関節の種類・特徴を理解し、各関節ごとの分類・運動の特徴、筋の働きについて説明できる。					
8	5/11 関節の構造と機能1					滑膜関節の構造を理解し、説明できる。その他関節の構造のうち、軸について理解する。					
9	5/16 関節の構造と機能2					それぞれの関節の構造の特徴を理解し、説明することができる。					
10	5/18 脊柱の構造と機能1 脊柱を構成する骨					脊柱を構成する骨の構造を理解し、説明することができる。					
11	5/23 脊柱の構造と機能2 脊柱の連結と生理的彎曲					脊柱の彎曲の特徴と姿勢について理解し、説明することができる。					
12	5/25 脊柱の構造と機能3 脊柱各部の関節の特徴と運動範囲					腰椎の運動と身体各部にかかるストレスについて説明できる。					
13	5/30 体幹とその運動1 胸椎・胸郭の動きについて					体幹の筋を位置関係を層構造とともに理解し、説明することができる。					
14	6/1 体幹とその運動2 運動連鎖と筋群の働き					運動連鎖について基本的な概念を知り、説明することができる。ローカル筋・グローバル筋について理解する。					
15	6/6 前半の振り返り					前半の復習として、不足分の解説・問題演習などを通じて理解を深める。					
〔評価について〕 評価は〔確認試験〕、〔小テスト・レポート〕の合算とする。〔確認試験〕は中間(30点)期末(45点)〔小テスト・レポート〕は計25点の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。社会情勢(新型コロナ)に応じて変更となる場合がある。						〔特記事項〕 毎授業においてノートをとること。Microsoft Teams上にアップされた資料を閲覧できるように、タブレット・ノートPCを推奨する(スマホでは見にくい可能性あり)。実施内容は社会情勢(新型コロナ)に応じて変更となる場合がある。					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	2	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名								中島 圭吾			
運動学(前期16～30)				必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	60(4)	授業回数	30
〔授業の学習内容と心構え〕											
運動学に必要な力学・運動器の構造と機能に関するキーワードを覚え、人間の身体に運動が生じるメカニズムを関節ごとに理解していく。また、人間の基本的動作(起居動作、歩行動作など)のなりたち、異常が生じた場合の現象も理解する。理学療法の実務経験のある教員が、基礎的用語から徐々に解説を進める。解剖学・生理学の授業と共にきわめて重要な基礎科目であることを理解し、学習してほしい。											
〔到達目標〕											
・人間の動作を観察・説明する際、運動学専門用語を正確に使って表現できるようになる。 ・解剖学で学んだ構造の知識を元に、歩行動作を中心に起居動作の特徴を説明できるようになる。 ・力学の知識をもとに、身体の方法の基本、障害発生時の問題など説明できるようになる。											
〔使用教材、参考文献等〕						〔準備学習・時間外学習〕					
基礎運動学第6版補訂中村隆一他著(医歯薬出版) Teamsにて資料データ配布						基礎科目である解剖学(筋骨格系)の知識が必須となるため、解剖授業の予習復習を徹底すること。基礎的な算数・数学の知識(三角関数・比率など)を復習すること。					
回	〔授業概要〕 月曜2限,水3限 開講					到達目標(できるようになること)					
16	6/8 前回までの振り返り					筆記試験によって理解度を確認する					
17	6/13 体幹とその運動3 骨盤帯の構造と機能・ローカル筋の補足					骨盤の構造を理解し、説明することができる。 ローカル筋の名称を知る。					
18	6/15 体幹とその運動4 ローカル筋の詳細					前回確認したローカル筋の付着部詳細 機能の確認					
19	6/20 体幹とその運動5 脊柱を支えるその他の構造					脊柱を支える筋の確認のほか、その他の重要な筋群(腸腰筋など)の働きを知る。					
20	6/22 体幹とその運動6 体幹の安定性/横隔膜の役割					体幹機能のうち、腹腔内圧に関わる筋はなにか説明できる。 横隔膜の動きを説明できる。					
21	6/27 体幹とその運動7 呼吸にまつわる筋					体幹機能のうち、呼吸に関係する筋の詳細について理解し、説明することができる。					
22	6/29 運動力学 てこの原理について					第1～3のてこについて、理解し、どんな利点があるか説明できる。					
23	7/4 前半の復習/問題演習					前半の復習として、不足分の解説・問題演習などを通じて、理解度を深める。					
24	7/6 上肢帯と上肢の構造					上肢の機能を理解し、説明できる。 上肢の関節の名称を説明できる。					
25	7/11 肩周囲の構造と機能1 肩甲骨周囲の関節と動き					肩甲骨・鎖骨の動きを説明できる。 肩関節周囲の筋の働きを理解し、説明できる。					
26	7/13 肩周囲の構造と機能2 肩甲骨周囲の深部の筋					肩関節の安定性にかかわる構造を理解し、説明することができる。					
27	7/18 (祝日開講) 肩周囲の構造と機能3 肩甲骨周囲の深部の筋					肩関節の動き(肩甲骨上腕リズム)を理解し、説明できる。					
28	7/20 肩周囲の構造と機能4 上肢帯の筋					上肢帯の筋の名称・機能を理解し、説明できる。					
29	7/25 上肢帯の筋の補足 前期の復習					前回の補足と前期の振り返り					
30	7/27 前期の復習・期末テスト					前期の復習として、不足分の解説・問題演習などを通じて理解を深める。期末テストにより成績判定する。					
〔評価について〕						〔特記事項〕					
評価は〔確認試験〕、〔小テスト・レポート〕の合算とする。〔確認試験〕は中間(30点)期末(45点)〔小テスト・レポート〕は計25点の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。社会情勢(新型コロナ)に応じて変更となる場合がある。						毎授業においてノートをとること。Microsoft Teams上にアップされた資料を閲覧できるように、タブレット・ノートPC持参を推奨する。(スマホでは見にくい可能性あり)実施内容は社会情勢(新型コロナ)に応じて変更となる場合がある。					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	2	開講 区分	前期	担当教員			
授業科目名		須藤 久也									
運動機能論Ⅰ		必修 ・ 選択	必修	授業 形態	講義 実技	時間数 (単位)	30 (2)	授業 回数	15		
〔授業の学習内容と心構え〕											
筋骨格系理学療法を専門とする専任教員により、骨格系(骨・関節・靱帯)、筋系、神経系に関する基本的な解剖学的・運動学的・生理学的知識を学ぶ。											
〔到達目標〕											
・骨格系(骨・関節・靱帯)、筋系、神経系の構造と機能を理解し、説明することができる。											
〔使用教材、参考文献等〕											
・カラーイラストで学ぶ集中講義 解剖学 ・基礎運動学 第6版 ・配布資料(Teamsにアップロード)											
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)						
1 (4/11)	オリエンテーション				授業を受ける上での注意点や成績評価について理解する。						
2 (4/18)	骨格系(上肢①) 小テスト1				上肢の骨格系の構造と機能を理解し、説明できる。						
3 (4/25)	骨格系(上肢②) 小テスト2				上肢の骨格系の構造と機能を理解し、説明できる。						
4 (5/9)	骨格系(上肢③) 小テスト3				上肢の骨格系の構造と機能を理解し、説明できる。						
5 (5/16)	骨格系(上肢④) 小テスト4				上肢の骨格系の構造と機能を理解し、説明できる。						
6 (5/23)	骨格系(骨盤・下肢①) 小テスト5				骨盤・下肢の骨格系の構造と機能を理解し、説明できる。						
7 (5/30)	骨格系(骨盤・下肢②) 小テスト6				骨盤・下肢の骨格系の構造と機能を理解し、説明できる。						
8 (6/6)	骨格系(骨盤・下肢③) 小テスト7				骨盤・下肢の骨格系の構造と機能を理解し、説明できる。						
9 (6/13)	筋・神経系(骨盤・股関節①) 小テスト8				骨盤・股関節の筋・神経系の構造と機能を理解し、説明できる。						
10 (6/20)	筋・神経系(骨盤・股関節②) 小テスト9				骨盤・股関節の筋・神経系の構造と機能を理解し、説明できる。						
11 (6/27)	筋・神経系(骨盤・股関節③) 小テスト10				骨盤・股関節の筋・神経系の構造と機能を理解し、説明できる。						
12 (7/4)	筋・神経系(膝関節①) 小テスト11				膝関節の筋・神経系の構造と機能を理解し、説明できる。						
13 (7/11)	筋・神経系(膝関節②) 小テスト12				膝関節の筋・神経系の構造と機能を理解し、説明できる。						
14 (7/18)	総復習/期末テスト対策 小テスト13				前期内容を総復習し、知識を整理することができる。						
15 (7/25)	期末テスト 解説				テストにより授業内容の習熟度を把握する。						
〔評価について〕 小テスト各5点×13回(65点)と、期末テスト(35点)の計100点で評価を行う。評価方法は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕 テストはTeamsで実施するため、PC/携帯などのデバイスを持参すること。						

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅰ部		学年	1	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名						内堀 昭宜			
理学療法基礎科学		必修・選択	必修	授業形態	講義演習	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕									
・理学療法に関連のある科学の内容を確認し、理学療法学の理解に役立てる ・理学療法士として必要な物理学、生物学、などの基礎的な科学を学ぶ									
〔到達目標〕									
・理学療法にかかわる科学の基礎的な内容を理解する ・国家試験の問題演習を通して、必要となる知識と考え方を身につける									
〔使用教材、参考文献等〕				〔準備学習・時間外学習〕					
●適宜、プリント配布				<準備> 日常にある数字に興味をもち、数字の意味を考える <時間外学習> 講義内容と小テストの振り返りを行い、知識の再確認をする					
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
1	【オリエンテーション】 授業の目的の確認 【イントロダクション】 なぜ、基礎科学が必要か			理学療法における科学が必要な場面を知る					
2	【数字を扱う】 ～リハビリテーション料(単位)とコスト①～			医療保険と介護保険の違いを理解し、理学療法を実施することで生じるコストを計算できる					
3	【数字を扱う】 ～リハビリテーション料(単位)とコスト②～			医療保険と介護保険の違いを理解し、理学療法を実施することで生じるコストを計算できる					
4	【運動強度】 ～心機能と肺機能～ ～実習:運動負荷量を計算してみよう～			理学療法評価に用いる指標を計算できる ★次週、レポート提出★					
5	【歩行能力】 ～歩行にかかわる数値～			歩行を評価する指標を知る					
6	【歩行能力】 ～実習:歩行にかかわる数値を算出してみよう～			歩行を評価する指標を使い計算できる ★次週、レポート提出★					
7	【神経】 ～神経伝導速度～			神経伝導の速度を求める計算ができる					
8	【科学・研究】 ～有効なEBPTを選択するために～ ～基本統計量～			文献抄読を通して、科学が理学療法の価値に影響することを知る ★次週、レポート提出★					
9	【力と運動】① ～“力”とは、作用・反作用の法則～			身体を使うときに生じる“力”について説明できる					
10	【力と運動】② ～力のつり合い、ベクトル～			身体を使うときに生じる“力”について説明できる					
11	【仕事とエネルギー】① ～仕事と仕事率～			仕事から考える効率的な動きを説明できる					
12	【仕事とエネルギー】② ～力学的エネルギー～			身体に生じるエネルギーを説明できる					
13	【波・光・音】 ～物理療法機器と効果～			物理的エネルギーがもたらす効果を説明できる					
14	★期末試験★(60分) 第9回～第13回 講義内容			試験を通して自分の知識の深さを理解する					
15	☆返却と解説☆ 講義のまとめ、振り返り			講義を振り返り、理学療法における科学の意義を再考する					
〔評価について〕				〔特記事項〕					
●レポート課題 ●期末試験				実施予定日・内容は進捗状況により変更する場合がある 配布資料に重要項目は書き込むこと					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	1	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名								前田祐貴			
解剖学Ⅰ				必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
理学療法士として医学的・科学的な総合的知識を得るとともに臨床現場で幅広い視野のもと治療の一端を担い、スペシャリストとなるため人体の正常な形態と構造、器官相互関係をその機能と関連付けて理解する。											
〔到達目標〕											
理学療法士として必要・不可欠な人体の成り立ちや神経系の形態、構造に関する基礎的知識を学ぶ											
〔使用教材、参考文献等〕											
カラーイラストで学ぶ 集中講義 解剖学 坂井建雄著 メジカルビュー社											
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	神経学総論:神経系の区分、神経組織					神経系の構造を学習し理解する					
	中枢神経系の構成、末梢神経系の構成、髄膜、脳室系					白質、灰白質の意味する構造を理解する。神経背索の機能区分を理解する					
3	中枢神経系:脳室系、脊髄					脊髄の外形、断面を理解する。					
4	中枢神経系:脊髄、脳幹:延髄					脳幹の構造と働きを理解する					
	中枢神経系:脳幹・橋、中脳					橋と中脳の構造と働きを理解する					
	中枢神経系:網様体、中脳、小脳					中脳の構造と機能を理解する					
7	中枢神経系:小脳、復習					小脳の網を理解する					
	中間試験					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
9	間脳、大脳半球					間脳、大脳半球の表面と区分を理解する					
	大脳皮質、髄質、大脳皮質の機能局在					大脳皮質と髄質の構造を理解する。ブロードマンの分類を理解する					
11	大脳皮質の機能局在、大脳基底核					大脳基底核の構造と働きを理解する					
12	上行性伝導路					温痛覚、粗大触圧覚の上行性伝導路の経路を理解し覚える					
	上行性伝導路、下行性伝導路					識別性触圧覚、非意識性深部感覚上行性伝導路の経路、下行性伝導路を理解し覚える					
14	下行性伝導路:錐体路、錐体外路					下行性伝導路(錐体路・錐体外路)の経路を覚え理解する					
15	期末試験					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕					〔特記事項〕						
評価は客観試験および授業中の小テストもしくは課題で行う。					毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。						
中間試験40%、期末試験40%、確認試験20%で59%以下を不合格とする					必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。						

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	1	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名								前田祐貴			
解剖学Ⅰ				必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
人体の構造と発生を理解するために、構成する各系統のうち運動器系(骨格系)と内臓系の形態的特色と働き、ならびに個体発生の基礎的事項についての知識を修得する。											
〔到達目標〕											
人体の構造を機能と関連づけて理解し、疾患の病態を理解する前に、身体の各部位の構造を理解できるようにする。											
〔使用教材、参考文献等〕											
カラーイラストで学ぶ 集中講義 解剖学 坂井建雄著 メジカルビュー社											
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	・オリエンテーション ・第1章:解剖学総論(その1)					解剖学的位置や方向を示す解剖学用語を理解し、説明できる。					
	・第1章:解剖学総論(その2)					人体の構成を理解し、説明できる					
3	・第1章:解剖学総論(その3)					人体の発生を理解し、説明できる。					
4	・第2章:骨学総論					骨の形態や構造を理解し、説明できる					
	・第3章:関節靱帯総論					関節の構造や機能などを理解し、説明できる。					
	・第4章:筋系総論					筋の種類や構造を理解し、説明できる					
7	・筋骨格系のまとめ					前回までの範囲を理解し、説明できる。					
	中間テスト					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
9	・第7章:内臓器系 内臓器官の基本構造					内臓器官の基本構造を理解し、説明できる。					
	・第7章:内臓器系 循環器(心臓)					心臓の基本構造を理解し、説明できる。					
11	・第7章:内臓器系 循環器系(動脈)					動脈系の構造や名称などを理解し、説明できる。					
12	・第7章:内臓器系 循環器系(静脈、胎生期の循環)					静脈系や胎生期の循環の構造や名称を理解し、説明できる。					
	・内臓系(基本構造・心臓・動静脈・胎生期循環)のまとめ					中間テストから前回までの範囲を理解し、説明できる。					
14	・前期のまとめ					前期の範囲を理解し、説明できる。					
15	・期末テスト					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕 評価は客観試験および授業中の小テストもしくは課題で行う。 中間試験40%、期末試験40%、確認試験20%で59%以下を不合格とする					〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。						

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	1	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名								石野 竜平 先生			
生理学		必修・選択		必修		授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
生理学は、人体の機能を理解する学問である。人体の生理機能を理解するために、人体を構成する各要素(細胞・組織・器官)に分解してその個々の機能を理解するとともに、それら要素間の相互関係や統合関係を学ぶ。また、機能を理解するためには構造特有の機能の理解も同時に必要である。最終的には構造と機能を総合して、人体全体としての機能を学修する。											
〔到達目標〕											
医療従事者として理学療法士が習得しておかなければならない人体生理反応を学ぶ。人体やそれを構成する各要素(細胞、組織、器官など)は、固有のはたらきや機能を持つ。生理学の講義を通し、これらの機能特性、またメカニズムを知る。											
〔使用教材、参考文献等〕 標準理学療法学・作業療法学 基礎分野 生理学						〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習してくる。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1.2	・細胞の構造と機能					人体の機能を生部生理学の歴史と学び方を理解できる。					
3.4	・細胞の構造と機能、拡散・浸透・ろ過、受動輸送と能動輸送					構造と機能からみた人体各部名称、階層性、細胞から組織のあり方を理解できる。					
5.6	・人体の構成 細胞と結合組織					人体の腔所と膜、機能から見た人体、細胞のエネルギー生成にどのようなものがあるかが理解できる。					
7.8	・細胞と内部環境 細胞の働きと活動電位					細胞組織の静止電位・活動電位から一連の動きを把握し理解できる。					
9.10	呼吸とガスの運搬について					呼吸の仕組みとガス交換のメカニズムを理解する。					
11.12	尿の生成と排泄について					尿の生成メカニズムを理解できる。					
13.14	酸塩基平衡について					血漿PH調節の意義と緩衝系について理解できる。アシドーシスとアルカローシスとの分類が出来る					
15.16	消化と呼吸について/中間テスト					消化器官の各部位における消化メカニズムを理解できる。消化器官ホルモンについて説明できる。					
17.18	内分泌					ホルモン役割と作用、種類が分類でき内分泌線・内分泌細胞の種類を理解できる。					
19.20	代謝と体温について					栄養の定義を確認し物質代謝たんぱく質代謝を把握しエネルギー代謝と発熱の構造が理解できる。					
21.22	生殖と発生について					男性女性の生殖機能を説明できる。更に胎児の発生を把握し分娩と授乳について理解できる					
23.24	血液組織と機能					血液の組織と役割が説明でき機能、調節メカニズムが理解できる。					
25.26	心臓と循環					心臓の働きと全身の循環経路が説明でき刺激や興奮における伝導が理解できる。					
27.28	心臓と血液					心拍出量と血圧及び調節メカニズムが説明でき物質交換メカニズムが理解できる。					
29.30	復習/期末試験										
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。筆記試験は中間テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。小テストは適宜実施するが、科目評価へ含まない。						〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。必要に応じ配布プリントによる授業・体験的な実習的学習を行なう。					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	1	開講 区分	前期	担当教員			
授業科目名		心理学						岩佐 浩之			
		必修・ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業 回数	15		
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
創業100年の老舗の三代目として、飲食店を経営し、また多岐にわたりビジネスを立ち上げ(国内・インド・フィリピン・中国・モルディブ・タイなど)現在に至る。流通業界では様々な仕入れ販売の経営経験を持ち、一部上場企業メーカー勤務では、製造から営業までを経験する。現在3社を経営し介護施設の理事を務めるカウンセラーが心理学をわかりやすく講義します。											
〔到達目標〕											
理学療法士として必要・不可欠な人体の成り立ちや携帯・構造に関する基礎的知識を学ぶ 自分とのコミュニケーション・1対1のコミュニケーション・・・1対多グループコミュニケーションを学び、活用できるようになる。											
〔使用教材、参考文献等〕 毎回の授業で配布					〔準備学習・時間外学習〕 世の中の動きを見て質問する						
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)						
1	講師自己紹介・オリエンテーション				一年の流れを説明する。一年後の自分の姿をイメージできるようになる。						
	目標設定				目標設定の仕方・目標とは何かを理解する。 目標を立てられるようになる。						
3	人脈				人脈の作り方・整理の仕方を学ぶ。 自分の人脈を整理する。						
4	経済的健康 その1 収入の種類				・従業員 ・自営業 ・オーナー ・投資家など収入の種類を理解する。						
	目標達成の仕方				①情報 ②モチベーション ③イメージ ④願望 15のステップ一つ一つを理解する。						
	目標達成の仕方				⑤決断する ⑥目標設定 ⑦プランを立てる ⑧夢泥棒⑨仲間探し 15のステップ一つ一つを理解する。						
7	目標達成の仕方				⑩環境づくり ⑪行動する ⑫毎日の成果のチェック						
	目標達成の仕方				⑬習慣にする ⑭潜在意識に落とし込む ⑮実現する						
9	精神的健康				心の病気について知り、対処法を身に付ける						
	身体的健康				病気のメカニズム・対処法を身に付ける。						
11	心理テスト				エゴグラムの実施 自分の心の癖を知る。						
12	経済的健康 その2 世の中				社会保障・税金などの知識を身に付ける。						
	質疑応答 ・ 復習				紙に書いて提出						
14	質疑応答 ・ 復習				後期の課題を見つける						
15	定期試験										
〔評価について〕 期末試験50% 小テスト50%で59%以下を不合格とする					〔特記事項〕 一コマは、ジグソーパズルのワンピースのようなものです。欠席した際は、情報を取って補ってください。						

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科1部		学年	1	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名								木村雅一			
コミュニケーション論				必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
・専門商社で北米・東南アジアを主とした貿易業務に携わり、異文化コミュニケーションの大切さ、難しさを身を持って体験した講師が、長年の経験をもとに、社会の中で生きる人間にとって基礎となる”コミュニケーション”の講義を行う。同時に職業人としての自己表現・接遇・マナー・ホスピタリティ精神・患者さん対応の要素も含めた社会的スキルの基礎的知識を習得する講義を行う。 様々な角度からコミュニケーション力・人間力・生きる力を考え、洞察力が身につく講義です。											
〔到達目標〕											
自分とのコミュニケーション・1対1のコミュニケーション・1対多グループコミュニケーションを学び、活用できるようになる。											
〔使用教材、参考文献等〕						〔準備学習・時間外学習〕					
授業ごとに必要に応じて資料配布						日常生活で疑問に思うことを見つけ、授業で質問する。					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	コミュニケーションとは、バーバルコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーション。メラビアンの法則					コミュニケーションの基本を学び理解する					
	グループでの会話の基本、クッション言葉					自己主張ができ、グループの中でコミュニティがきちんととれるようになる。					
3	仕事上のコミュニケーションの基本、交渉説得プレゼン					交渉技術・プレゼン技術を学び、使えるようになる					
4	自己覚知・アンガーマネジメント					感情とコミュニケーションの関係を学ぶ					
	社会的スキルとコミュニケーション					挨拶・敬語・丁寧語が使えるようになる。					
6	スマホを使ったコミュニケーション					メール・line・FAX・手紙のルールを身に付ける。					
7	人・環境・プロセスWINWIN					サービスとコミュニケーションについて学び活用できるようになる。					
8	社会的スキルⅠ 対人行動					社会的スキルの実践 習得をする。 5接客 6訪問 7訪問(謝る おわびをする)					
9	社会的スキルの実践					・社会人の基本的マナー・教養、身につけるべき知識を学習すし 日々の行動から意識し活用できるようにする					
	サービスマインドⅠ					・サービス社会をふまえて。サービスマインドとは？、サービスとは？について学習する実践の場に活かす					
11	サービスマインドとは					・サービスの姿勢を習得満足度を向上させると同時にやりがいを持ってサービスを提供できる力を身につける					
12	サービスマインドⅡ サービスの基本要素					・人(あなた)と顧客／顧客満足度の関係を整理し、適切な行動と顧客理解、顧客ニーズを事例とともに学習する					
13	サービスマインドⅡ サービスの基本要素					・企業、店舗における経営理念、それを実現するための方針、 サービスの方法を学び実践できるようになる。					
14	1回～13回までの復習					・定期試験対策					
15	定期試験										
〔評価について〕						〔特記事項〕					
・評価は、筆記試験で行う。・授業内で学んだ知識を確認する。・定期試験は、60分とし、終了後解説をおこなう。・筆記試験は、小テスト(40点) 期末テスト(60点)の合計100点で評価する。・評価は、学則規定に準ずる。						基本的には1回ごとに完結する内容で行うが、過去の授業内容を元にステップアップしつつ行うため、毎回確実に内容を身につけることを心がけること。					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	1	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名								小川 達也			
保健体育				必修/選択	必修	授業形態	講義実技	時間数(単)	30(2)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
テーピングの基本を学び、膝関節に対する固定テーピング法を習得する。遅刻欠席はせず、授業内では、積極的に不明点を明白化してほしい。											
〔到達目標〕 膝関節の損傷に対する整形外科的テストと解剖学の理解、膝関節の安定性補強テープの習得											
〔使用教材、参考文献等〕 配布プリント						〔準備学習・時間外学習〕 授業で行なったことを反復練習による基礎的な技術の復習をし、確実に身に付けることが望ましい。					
回		〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)					
1	4月14日	膝関節に対するアンダーラップ、アンカー、スパイラルテープの習得				テーピングの種類の把握と、ホワイトテープの切り方、アンダーラップの習得					
2	4月21日	膝関節に対するスパイラルテープとACL補強テープ				膝関節の構造、ACLの理解とACL補強テーピング法の習得					
3	4月28日	膝関節に対するスパイラルテープとMCL補強テープ				MCLの理解と触診、MCL補強テーピング法の習得/ 膝関節に対する整形外科的テスト⇒テープの練習- 圧アプレ/ラックマン/前方引き出しテストの習得					
4	5月12日	膝関節に対するテーピングをスムーズに行う				膝関節に対して、何も見ずにテーピングを行う					
5	5月19日	膝関節に対するテーピングを6分以内に行う				時間短縮の為のシザースの使い方/張り方					
6	5月26日	膝関節に対するテーピングを5分以内に行う				時間短縮の為の剥がれないテープの張り方					
7	6月2日	膝関節に対するテーピングを4分以内に行う				テーピングによる膝関節安定感向上の為のテンションのかけ方					
8	6月9日	膝関節に対するキネシオテーピング、触診、MMT(ハムストリングス/大腿四頭筋/腓腹筋/膝蓋靱帯)				キネシオテーピング法の習得					
9	6月16日	膝関節に対するキネシオテーピング、触診、MMT(ハムストリングス/大腿四頭筋/腓腹筋/膝蓋靱帯)				キネシオテーピング法の習得					
10	6月23日	膝関節に対するキネシオテーピング、触診、MMT(ハムストリングス/大腿四頭筋/腓腹筋/膝蓋靱帯)				キネシオテーピング法の習得					
11	6月30日	膝関節に対するキネシオテーピング、触診、MMT(ハムストリングス/大腿四頭筋/腓腹筋/膝蓋靱帯)				キネシオテーピング法の習得					
12	7月7日	膝関節に対するキネシオテーピング、触診、MMT(ハムストリングス/大腿四頭筋/腓腹筋/膝蓋靱帯)				キネシオテーピング法の習得					
13	7月14日	前期テスト				膝関節に対するテーピングを5分以内に巻けるようにするorキネシオテーピング法					
14	7月14日	前期テスト				膝関節に対するテーピングを5分以内に巻けるようにするorキネシオテーピング法					
15	7月21日	前期のフィードバック/試験受けられなかった方-テスト				前期のテーピング授業に対するフィードバック					
〔評価について〕 評価は実技試験で行う。 試験は小テスト(60点＝30点×2回)と総括後の期末テスト(20点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。						〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	1	開講区分	前期	担当教員		
授業科目名								関口 康平		
				必修・選択	必修	授業形態	座学	時間数(単位)	15(1)	授業回数
リハビリテーション概論										
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)										
理学療法士科の専任教員が、臨床で必要なリハビリテーションに関する仕組み、知識を教授する。 遅刻欠席はせず、授業内だけでなく自主練習をして授業に臨んでほしい。										
〔到達目標〕										
臨床で必要なリハビリテーションの仕組みや流れ、知識を身に付ける。 リハビリテーションの歴史や、理学療法士との関係性を理解する。										
〔使用教材、参考文献等〕										
随時、資料を提供します。										
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)				
1	オリエンテーション リハビリテーションの語源と歴史 ノーマライゼーション					リハビリテーションの歴史やノーマライゼーション、IL運動について理解する。				
2	医療・保健・福祉とリハビリテーションの関わり					リハビリテーションと医療、福祉、保健との関わり、影響を理解する。				
3	健康と障がいの概念と障害受容					健康と障がいの概念と、障害受容の流れ、段階を理解する。				
4	ICIDHとICF メリットとデメリット					ICIDHとICFの内容、仕組みを理解して、それぞれのメリット・デメリットを理解する。				
5	中間試験(未定)					1～4回目までの内容が理解できているかを確認する。足りない部分を把握する。				
6	リハビリテーションの過程					リハビリテーションで展開される急性期～維持期、終末期の内容を理解する。				
7	リハビリテーションに関わる法律と制度					医療における法律・制度や、福祉における法律・制度を理解する。				
8	期末試験					6, 7回の内容を理解できているか確認する。足りない部分を把握する。				

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	1	開講区分	前期	担当教員		
授業科目名								関口 康平		
				必修・選択	必修	授業形態	座学	時間数(単位)	15(1)	授業回数
理学療法概論										
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)										
理学療法士科の専任教員が、臨床に必要な理学療法に関する知識、仕組みを教授する。 遅刻欠席はせず、授業内だけでなく自主練習をして授業に臨んでほしい。										
〔到達目標〕										
臨床に必要な理学療法の仕組みや流れ、知識を身に付ける。 理学療法の歴史や、理学療法士の身分や職域、臨床で行うことなどを理解する。										
〔使用教材、参考文献等〕										
随時、資料を提供します。										
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)				
1	オリエンテーション					リハビリテーションの歴史やノーマライゼーション、IL運動について理解する。				
2	理学療法の定義、歴史、倫理的配慮					リハビリテーションと医療、福祉、保健との関わり、影響を理解する。				
3	理学療法に関わる法律・制度、職域					健康と障がいの概念と、障害受容の流れ、段階を理解する。				
4	理学療法の実施過程					ICIDHとICFの内容、仕組みを理解して、それぞれのメリット・デメリットを理解する。				
5	理学療法の対象と実施内容					1～4回目までの内容が理解できているかを確認する。足りない部分を把握する。				
6	肢体不自由に対する理学療法					リハビリテーションで展開される急性期～維持期、終末期の内容を理解する。				
7	内部障害に対する理学療法、世界におけるPTの動き					医療における法律・制度や、福祉における法律・制度を理解する。				
8	期末試験					1～7回の内容を理解できているか確認する。足りない部分を把握する。				
〔評価について〕 評価は小テスト、期末試験で行う。 各試験は小テスト10×5点と期末試験50点で行われ合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。						〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリント、資料の配信による授業を行なう。				

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	1	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名				必修・選択	必修	授業形態	講義実技	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
救急救命(BLS)											
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
ライフセーバーとして救命の現場で実践活動の経験を積んだ教員が、救命の現場の実際を交えながら一般市民に求められる心肺蘇生の重要性を理解させ実践できるようになる知識や技術を習得する授業を行う。											
〔到達目標〕											
ライフセービングの精神を理解し生命教育を通じ自分の大切な家族、友人、そして隣人の命を守りたいという人間的な愛の表現を学び、市民の義務の一つでもある心肺蘇生について習得する。心肺蘇生とAEDの知識と技術を身に付け、「習ったことがある」という体験レベルから「生命を救うことができる」という実践レベルになる。											
〔使用教材、参考文献等〕 教科書:「救急救講習」日本赤十字社 「心肺蘇生教本」日本ライフセービング協会 教材:レザシアン、AED、三角巾、消毒液(学校準備)						〔準備学習・時間外学習〕 心肺蘇生の実施方法について自宅で練習してみる。 AEDの設置場所について、自宅周辺、学校周辺など確認しておく。 三角巾での保護の仕方を反復練習する。					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	オリエンテーション ライフセービングとは 将来像について					スポーツの世界で仕事をする上で必要なことを準備する 市民の義務の一つでもあることを感じる					
	ファーストエイドの基本 傷病者の観察					ファーストエイドの定義について説明できる。 傷病者の観察について実践する。					
3	ケガの手当 RICE処置 止血の仕方					ケガについて説明できる。 RICE処置、アイシング、止血について説明できる。					
4	熱傷、心臓発作、脳卒中の手当					熱傷、心臓発作、脳卒中について、説明できる。 急病の対策と手当の方法について調べる。					
	熱中症の手当 手当の手順					熱中症について、説明できる。 ケガに対する手当の手順について調べる。					
6	きずの手当 三角巾1【実技】					包帯、三角巾の役割について、説明できる。 八つ折り、本結び、しまい方、ケガの保護を修得する。					
7	きずの手当 三角巾2【実技】					三角巾でのケガの保護の仕方を習得する。					
8	中間テスト(筆記試験)					筆記テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
9	心肺蘇生の意義					教科書「第1～3章心肺蘇生法の意義」について調べ、なぜ心肺蘇生が必要なのか推測する。					
	心肺蘇生の手順					教科書「第4章心肺蘇生法の実際」について、心肺蘇生の手順を準備する。死戦期呼吸について調べる。					
11	AEDの使い方					AEDについて、その必要性を理解し使い方を身につける 実際の現場の様子を推測して心構えについて準備する					
12	心肺蘇生の手順 胸骨圧迫の仕方 AEDの使い方【実技】					胸骨圧迫の注意点を学び、実際にできるように体験する AEDの注意点について学び、実際にできるように体験する。					
	小児乳児の心肺蘇生 CPR+AED【実技】					教科書「第5～7章小児乳児のCPR気道異物除去」について調べる。 心肺蘇生とAEDを繰り返し練習により実践できるようになる。					
14	BLS実技検定【実技】					実技検定による心肺蘇生とAEDの技術習得度を知る。					
15	期末試験(BLS学科検定)					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕 評価は、筆記試験と実技試験で行う。 筆記試験は中間テスト(40点)と期末テスト(30点)、実技試験は実技検定(30点)の合計100点で評価する。 評価は学則規定に準ずる。						〔特記事項〕 実技の場合は動きやすい服装をすること。スカートではなくズボン着用を勧めます。					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	1	開講 区分	後期	担当教員 小川 達也 先生			
授業科目名				必修/ 選択	必修	授業 形態	演習	時間数 (単位)	30 (2)	授業 回数	15
保健体育											
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 元プロサッカーボールチーム所属のセラピストが、ヨガ・テーピング・その他の運動療法を通して、身体コンディショニングについて実技の授業を行う。											
〔到達目標〕 応急処置技術(テーピング)を学び、実践可能なレベルへ到達する。											
〔使用教材、参考文献等〕 テーピングのポイントはこれだ						〔準備学習・時間外学習〕 初めて行なう技術であるため、授業で行なったことを反復練習による基礎的な技術の復習をし、確実に身に付けることが望ましい。					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	コンディショニングについて					コンディショニングの定義を理解できる。					
2	自重トレーニングを学ぶ(初級編)					自重トレーニングの方法を理解できる。					
3	自重トレーニングを学ぶ(中級編)					自重トレーニングの手順を理解できる。					
4	自重トレーニングを学ぶ(上級編)					自重トレーニングを実践できる。					
5	筋肉の特徴について(初級編)					筋肉の特徴を理解できる。					
6	筋肉の構造について(中級編)					筋肉の構造を理解できる。					
7	体の中の筋肉について(上級編)					様々な筋肉を理解し説明ができる。					
8	ストレッチングを学ぶ(初級編)・・・小テスト(10点)					ストレッチングの原理を理解できる。					
9	ストレッチングを学ぶ(中級編)					ストレッチングの方法を理解できる。					
10	ストレッチングを学ぶ(上級編)					ストレッチングを実践できる。					
11	マッサージを学ぶ(初級編)・・・小テスト(10点)					マッサージの原理を理解できる。					
12	マッサージを学ぶ(中級編)					マッサージの方法を理解できる。					
13	マッサージを学ぶ(上級編)					マッサージを実践できる。					
14	期末テスト					テストにより効果測定を行い、未修得技術を把握し、技術練習の必要性が理解できる。					
15	コンディショニング(トピックス)					今期授業の総復習とコンディショニングの全体観を理解する。					
〔評価について〕 評価は学則規定に準ずる。筆記試験は小テスト(30点)と期末テスト(70点)の合計100点で評価する。評価は学則に準ずる。						〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモを取ること。日字様に応じて配布プリントによる授業を行う。					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	1	開講区分	後期	担当教員 岩佐 浩之 先生			
授業科目名				必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
心理学											
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
教育カウンセラーとして2001年より専門学校を中心に実践的な心理学を教授する傍ら、日本語学校や技能実習生の受け入れにおけるカウンセリングも行っている。本授業では教科書的でない、生活の中に生きる心理学の授業を行うことで心理学的アプローチに役立てて欲しい。											
〔到達目標〕											
心理学、コミュニケーションを学び、利用者さんだけではなく、自分自身のメンタルも健康も維持できるようになる。											
〔使用教材、参考文献等〕 授業ごとに必要に応じて資料配布						〔準備学習・時間外学習〕 日常生活で疑問に思うことを見つけ、授業で質問する。					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	・オリエンテーション ・講師自己紹介					一年間の流れを説明する。一年後の自分の姿をイメージできるようになる。					
2	目標設定					目標設定の立て方。目標とは何かを理解する。目標を立てられるようになる。					
3	人脈					人脈の作り方・整理の仕方を学ぶ。自分の人脈を整理する。					
4	経済的健康 その1 収入の種類					・従業員・自営業・オーナー・投資家などの収入の種類を理解する。					
5	目標達成の立て方					①情報 ②モチベーション ③イメージ ④願望 15のステップ一つ一つを理解する。					
6	目標達成の立て方②					⑤決断する ⑥目標設定 ⑦プランを立てる ⑧夢泥棒 ⑨仲間探し 15のステップを理解する。					
7	目標達成の立て方③					⑩環境づくり ⑪行動する ⑫毎日の成果のチェック					
8	目標達成の立て方④					⑬習慣にする ⑭潜在意識に落とし込む ⑮実現					
9	精神的背景					心の病気について知り、対処法を身につける。					
10	身体的健康					病気のメカニズム・対処法を身につける。					
11	心理テスト					エゴグラムの実施。自分の心の癖を知る。					
12	経済的健康 その2 世の中					社会保障・税金などの知識を身につける。					
13	質疑応答・復習					紙に書いて自由に					
14	質疑応答・復習②					後期の課題を見つける。					
15	定期試験					マークシート四択(過去問題)					
〔評価について〕 ・評価は、毎回の課題レポートと定期試験の合計100点換算で行う。・授業内で学んだ知識を確認し学則規定に準ずる。						〔特記事項〕 基本的には1回ごとに完結する内容で行うが、過去の授業内容を元にステップアップしつつ行うため、毎回確実に内容を身に着けることを心がけること。					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅰ部		学年	1	開講区分	後期	担当教員 前田 祐貴 先生			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
解剖学Ⅰ(神経)									
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
臨床解剖学分野での学識豊富な医師による講義で、人体の構造と発生を理解するために、構成する各系統のうち神経系の形態的特色と働き、並びに個体発生の基礎的事項についての知識を習得する。									
〔到達目標〕									
理学療法士として必要・不可欠な人体の成り立ちや携帯・構造に関する基礎的知識を学ぶ									
〔使用教材、参考文献等〕 標準理学療法学・作業療法学 解剖学					〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習してくる。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。				
回	〔授業概要〕 到達目標(できるようになること)								
1	末梢神経系: 脊髄神経 脊髄神経とは何か。頸神経神経を理解する								
2	脊髄神経: 頸神経叢、腕神経叢 頸神経叢、腕神経叢の構成を理解する								
3	脊髄神経: 腕神経叢の枝、鎖骨上枝 腕神経叢の構成と鎖骨上枝の筋枝、皮枝を理解する								
4	脊髄神経: 腕神経叢鎖骨下枝 筋皮神経など鎖骨下枝を理解する								
5	脊髄神経: 鎖骨下枝 尺骨神経、腋窩神経、橈骨神経の筋枝、皮枝、マヒを理解する								
6	脊髄神経: 鎖骨下枝 橈骨神経。正中神経の筋枝、皮枝、マヒを理解する								
7	脊髄神経: 胸神経、腰神経、仙骨神経叢 筋枝、皮枝を理解する								
8	中間確認試験								
9	脊髄神経: 坐骨神経 坐骨神経の構成、筋枝、皮枝、障害を理解する								
10	脊髄神経: 陰部神経、仙骨神経、脳神経 脳神経を理解する								
11	脳神経 脳神経の名称、構成、機能、障害を理解する								
12	脳神経 嚢神経の名称、鯉宇正、機能、障害を理解する								
13	自律神経: 交感神経、副交感神経 交感神経の構成、経路、副交感神経の特徴を理解する								
14	自律神経: 副交感神経 副交感神経の特徴を理解する								
15	期末試験								
〔評価について〕 中間確認試験30% 期末試験50% 確認試験20% で59%以下を不合格とする。					〔特記事項〕 講義では、解剖をよりよく理解できるように、重要なポイントについてのみ解説する。学生は自主的に教科書を読み、人体の構造と機能についての理解を深めなければならない。				

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅰ部		学年	1	開講区分	後期	担当教員 前田 祐貴 先生			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業回数	15
解剖学Ⅰ(脈管)									
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
臨床解剖学分野での学識豊富な医師による講義で、人体の構造と発生を理解するために、構成する各系統のうち神経系の形態的特色と働き、並びに個体発生の基礎的事項についての知識を習得する。									
〔到達目標〕									
理学療法士として必要・不可欠な人体の成り立ちや形態、構想、機能に関する基礎的知識を学ぶ									
〔使用教材、参考文献等〕 標準理学療法学・作業療法学 解剖学。病気が見える					〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習してくる。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。				
回	〔授業概要〕 到達目標(できるようになること)								
1	循環器系:血管 血管系の構造、特徴を理解する								
2	循環器系:心臓 心臓の位置、区分、弁などを理解する								
3	循環器系:心臓、動脈系 刺激伝導系、心臓の血管心臓から出る動脈系を理解する								
4	動脈系:脳に血液を供給する血管 脳の血管を理解する								
5	動脈系:脳に血液を供給する血管下肢、下腿部の血管 総腸骨動脈などを理解する								
6	動脈系、静脈系 静脈系の特徴を理解する								
7	静脈系:特殊循環系 特殊循環系を理解する								
8	中間確認試験								
9	胎生期の循環系、リンパ系 胎生期の循環系、リンパ系の構造、機能を理解する								
10	呼吸器系:鼻、喉頭 鼻、喉頭の構造を理解する								
11	呼吸器系:喉頭、気管、気管支 発声のしくみ、気管・気管支の構造、特徴を理解する								
12	呼吸器系:肺 肺の構造を理解する								
13	呼吸器系:肺、胸膜、縦郭。感覚器系 胸膜、縦郭の構造を理解する。外皮の構造を理解する。								
14	感覚器系:角質器 毛、爪、皮膚腺を理解する								
15	期末試験								
〔評価について〕 中間確認試験30% 期末試験50% 確認試験20% で59%以下を不合格とする。					〔特記事項〕 講義では、解剖をよりよく理解できるように、重要なポイントについてのみ解説する。学生は自主的に教科書を読み、人体の構造と機能についての理解を深めなければならない。				

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース理学療法士科Ⅰ部		学年 1	開講 区分	後期	担当教員 石野 竜平 先生					
授業科目名 生理学					必修/ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	60 (4)
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)										
臨床生理を専門とする医師による人体の機能を理解する学問である。生理学後期では、人体の植物機能を構成する循環器、呼吸器、消化器、腎臓、内分泌、血液の形態及び生理機能並びに体液・体温の調節、栄養と代謝を学び、人体の生命現象の恒常性(ホメオスタシス)と運動・活動時の適応(運動生理)について学修する。										
〔到達目標〕										
医療従事者として理学療法士が習得しておかなければならない人体生理反応を学ぶ。 人体やそれを構成する各要素(細胞、組織、器官など)は、固有のはたらきや機能を持つ。生理学の講義を通し、これらの機能特性、またメカニズムを知る。										
〔使用教材、参考文献等〕 標準理学療法学・作業療法学 基礎分野 生理学						〔準備学習・時間外学習〕				
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)				
1・2	・オリエンテーション 呼吸とガスの運搬について					軌道の構成と役割を理解でき呼吸不全と病的呼吸の分類が出来る。				
3・4	尿の生成と排泄について					心臓の構造と役割が理解できる。更に尿の生成メカニズムを理解できる。				
5・6	酸塩基平衡について					血漿PH調節の意義と緩衝系について理解できる。 アシドーシスとアルカローシスとの分類が出来る				
7・8	消化と呼吸について					消化器官の各部位における消化メカニズムを理解出来る。消化器官ホルモンについて説明できる。				
9・10	内分泌について					ホルモン役割と作用、種類が分類でき内分泌線・内分泌細胞の種類を理解できる。				
11・12	代謝と体温について					栄養の定義を確認し物質代謝たんぱく質代謝を把握しエネルギー代謝と発熱の構造が理解できる。				
13・14	生殖と発生について					男性女性の生殖機能を説明できる。更に胎児の発生を把握し分娩と授乳について理解できる、				
15・16	運動生理について					筋力と持久力について把握でき、筋収縮エネルギー源を説明でき筋力全般を理解できる。				
17・18	・生理学窓復習 細胞と組織・中枢神経と末梢神経・反射					前期で学んだ総復習と国家試験に頻出する問題を解答解説できる				
19・20	・生理学窓復習 脳と脳幹・大脳皮質・骨格筋・感覚と伝道経路					前期で学んだ総復習と国家試験に頻出する問題を解答解説できる				
21・22	・生理学窓復習 血液・心臓・循環・血漿					前期で学んだ総復習と国家試験に頻出する問題を解答解説できる				
23・24	・生理学窓復習 呼吸・尿の生成と排泄・消化と呼吸					前期で学んだ総復習と国家試験に頻出する問題を解答解説できる				
25・26	・生理学窓復習 内分泌・酸塩基平衡・代謝					前期で学んだ総復習と国家試験に頻出する問題を解答解説できる				
27・28	・生理学窓復習 生殖と体温・運動生理					前期で学んだ総復習と国家試験に頻出する問題を解答解説できる				
29・30	定期試験					国家試験を想定したテスト及び解答解説				
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は中間確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。						〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業・体験的な実習の学習を行なう。				

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	1	開講区分	後期	担当教員 中島 圭吾 先生			
授業科目名				必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	60 (4)	授業回数	30
運動学											
〔授業の学習内容と心構え〕											
整形外科クリニックでの勤務経験とアスレティックトレーナー公認資格を有しサッカーワールドカップをはじめ多くのスポーツ現場で活動している理学療法士の専任教員が、運動学に必要な力学・運動器の構造と機能に関するキーワードを覚え、人間の身体に運動が生じるメカニズムを関節ごとに理解していく。また、人間の基本的動作(起居動作、歩行動作など)のなりたち、異常が生じた場合の現象も理解する。基礎的用語から徐々に解説を進める。解剖学・生理学の授業と共にきわめて重要な基礎科目であることを理解し、学習してほしい。授業は2コマ続きで行う。											
〔到達目標〕											
・人間の動作を観察・説明する際、運動学専門用語を正確に使って表現できるようになる。 ・解剖学で学んだ構造の知識を元に、歩行動作を中心に起居動作の特徴を説明できるようになる。 ・力学の知識をもとに、身体の方法の基本、障害発生時の問題など説明できるようになる。											
〔使用教材、参考文献等〕						〔準備学習・時間外学習〕					
基礎運動学第6版補訂中村隆一他著(医歯薬出版) 他随時参照プリント配布						基礎科目である解剖学(筋骨格系)の知識が必須となるため、解剖授業の予習復習を徹底すること。基礎的な算数・数学の知識(三角関数・比率など)を復習すること。					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1・2	手関節の構造と機能 1					手・手関節の機能と運動・肢位を理解し、説明できる。					
3・4	手関節の構造と機能 2					手関節周囲の筋の働き、変形・末梢神経麻痺の症状について理解し、説明できる。					
5・6	頭部・顔面の機能と構造					頭部の骨・関節・筋の働き(咀嚼筋、表情筋)について理解し、説明できる。					
7・8	下肢帯と自由下肢の構造と機能					下肢の骨・関節の構造、骨盤の構造について理解し、説明できる。					
9・10	股関節の機能と構造 1					骨盤・大腿骨の形状、股関節周囲の靱帯の名称と働きについて理解し、説明できる。					
11・12	股関節の機能と構造 2					股関節周囲の筋の働きについて理解し、説明できる。					
13・14	膝関節の構造と機能 1					膝関節の構造、アライメント、運動の特徴について理解し、説明できる。					
15・16	前半の振り返り・質問受け付け 中間確認テスト					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
17・18	膝関節の構造と機能 2					膝関節周囲の靱帯、半月板の構造と機能について理解し、説明できる。					
19・20	足関節・足部の構造と機能 1					足関節・足部を構成する関節の構造と運動について理解し、説明できる。					
21・22	足関節・足部の構造と機能 2					足のアーチの構造と機能、足関節周囲の筋の働き、足の変形について理解し、説明できる。					
23・24	歩行概論1					歩行周期の名称、歩行に関する専門用語を理解し、説明できる。					
25・26	歩行概論2					歩行時の各関節の動き、重心の偏移、床反力について理解し、説明できる。					
27・28	運動学習					運動学習に関わる基本用語、基本的な考え方を理解し、説明できる。					
29・30	総括 期末テスト					後期に学習した運動学の内容のまとめを通じて、後期の内容の全体像を理解し、説明できる。更に試験で深める。					
〔評価について〕						〔特記事項〕					
評価は筆記試験で行う。 筆記試験は中間確認テスト(50点)と総括後の期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。						毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	1	開講区分	後期	担当教員 須藤 久也 先生			
授業科目名				必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業回数	15
運動機能論Ⅱ											
〔授業の学習内容と心構え〕											
筋骨格系理学療法を専門とする専任教員による「運動機能」の知識を基礎から学習する。運動学・解剖学の理解を助けるための授業とする。また、運動学の理解に必要な計算に関する知識の復習もおこなう。スポーツリハビリに特化し運動器系の臨床経験の豊富な理学療法士である教員が、臨床の現場で必要な知識を中心に概説・演習をおこなう。積極的に行動し、学ぶ態度が求められる。											
〔到達目標〕											
・人体の関節、靱帯、筋に関する基本的な構造と機能一般を理解できる。 ・頭蓋・脊柱・胸郭・上肢・下肢の連結の構造と、各部の名称を把握できる。 ・骨格筋の構造と、上肢・下肢・体幹における各筋の起始・停止・作用とその走行を説明できる。											
〔使用教材、参考文献等〕						〔準備学習・時間外学習〕					
・基礎運動学 第6版 補訂 中村隆一他 著 (医歯薬出版) ・配布資料						解剖学のテキスト、配布プリント等を十分に復習すること。					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	オリエンテーション					運動機能論Ⅱを受講する上での注意点を理解し、説明できる。					
2	運動学・解剖学の基礎確認と復習					身体運動を表す用語の通りに自身の身体を動かせるようになる。					
3	・下肢の連結①(股関節)					内寛骨筋 と外寛骨筋寛骨と大腿骨の連結の動きを骨模型を使って確認しランドマークの説明が出来る					
4	・下肢の筋(寛骨筋)					内寛骨筋 と外寛骨筋寛骨と大腿骨の連結のランドマークをグループ内で触診し合いながら理解できる					
5	・下肢の連結①(膝関節)					大腿骨・腓骨・脛骨の連結の動きを骨模型等を使って確認しランドマークが出来る					
6	・下肢の靱帯(膝関節)①					外側側副・内側側副・膝蓋・前十字・後十字の各靱帯の構造を理解できる。					
7	・下肢の靱帯(膝関節)②					膝関節・靱帯系を連結して理解できる。					
8	中間確認テスト					国家試験形式で中間確認テストを行い理解力を深める。その後解答解説を行う。					
9	・下肢の連結①(足関節)					距腿関節をも含めて、足根骨、中足骨および足の指骨の間に生ずる関節の仕組みを理解できる。					
10	・下肢の筋(足関節の筋)					距腿関節、足根骨、中足骨および足の指骨の間に生ずる筋肉の働きを理解できる。					
11	・頭蓋、脊柱、胸郭の連結					体幹骨の連結における頭蓋骨、脊柱、胸郭の仕組みを模型を使って理解できる。					
12	・頸部、体幹の筋					体幹骨の連結における頸部、体幹の筋の繋がりを理解できる。					
13	・顔面、頭部の筋					体幹骨の連結における顔面、頭部の筋の繋がりを理解できる。					
14	総まとめ					人体の下肢及び体幹における仕組みを国家試験問題に沿って理解できる。					
15	期末試験					国家試験問題形式で本科目の理解ができる。終了後解答解説を行う。					
〔評価について〕						〔特記事項〕					
評価は筆記試験で行う。 筆記試験は中間確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。						毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科 I 部	学年	1	開講区分	後期	担当教員 樋口 美幸 先生			
授業科目名 人間発達学	必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

障がい者福祉センターで長年、発達領域のリハビリに携わる理学療法士による授業である。人間発達学では、生涯にわたる人間発達の様相を、胎児期・新生児期から乳幼児期、児童期、青年期、成人期、老年期において、それぞれが持つ身体的、精神的、心理社会的特徴とその障害を理解し、発達に応じた社会との関わりを総合的に捉え、具体的支援の在り方について学修する。

〔到達目標〕

- ・人間発達の原則を理解する事ができるようになる
- ・運動発達、ハndsスキルの発達、視覚・眼球発達、目と手の協調性、遊びの発達、コミュニケーションと言語の発達、日常生活活動の発達についての概要を理解する事ができるようになる。

〔使用教材、参考文献等〕

標準理学療法学・作業療法学 基礎分野 生理学

〔準備学習・時間外学習〕

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	人間の発達の概要、発達の原則、発達期について①	人間発達学とは何か、発達の概念、発達の原則について理解できる
2	人間の発達の概要、発達の原則、発達期について②	グループ学習で人に伝える事ができる
3	胎生期および新生児期と乳児期の特徴について①	胎生期および乳児期の特徴をまとめる事ができる
4	胎生期および新生児期と乳児期の特徴について②	胎生期および乳児期の特徴を発表する事ができる
5	運動発達と姿勢反射(原始反射・正常姿勢反応)について①	運動発達の原則、原始反射、姿勢・運動発達の概要をまとめる
6	運動発達と姿勢反射(原始反射・正常姿勢反応)について②	運動発達の原則、原始反射、姿勢・運動発達の概要をグループで発表できる
7	視覚・眼球運動の発達について	視覚の発達、眼球運動の発達について調べてまとめ発表する事ができる
8	中間確認テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める
9	ハndsスキルの発達について目と手の協調性について①	視覚の発達、眼球運動の発達について調べてまとめる事ができる
10	認知機能の発達について①	認知機能の発達についてまとめる事ができる
11	コミュニケーションおよび言語の発達について①	コミュニケーションと言語の発達についてまとめる事ができる
12	遊びの発達、日常生活活動の発達について	日常生活活動および遊びの発達についてまとめる事ができる
13	幼児期の発達、児童期の発達について	幼児期および児童期についてまとめる事ができる
14	青年期、成人期、老年期の発達について	青年期、成人期、老年期についてまとめる事ができる
15	グループ学習(幼児期～老年期)	幼児期～幼年期までの発達の流れを理解できる

〔評価について〕

評価は筆記試験で行う。
筆記試験は中間確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。必要に応じ配布プリントによる授業・体験的な実習的学習を行なう。

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	1	開講区分	後期	担当教員 石野 竜平 先生			
授業科目名				必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業回数	15
病理学											
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
臨床生理を専門とする医師による講義で、病気の発生に関与する普遍的細胞レベルの傷害や分子の異常を学習・理解する。											
〔到達目標〕 疾患の病因・病態を病理形態学的変化から理解し、疾患発生に関する基礎的知識を学ぶ											
〔使用教材、参考文献等〕 標準理学療法学・作業療法学 病理学						〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習してくること。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	病因、退行性病変					病因と変性・萎縮・壊死を理解する					
2	退行性病変、進行性病変					萎縮・壊死の種類と例を学び理解する					
3	代謝異常					各栄養素別代謝疾患を学習し理解する					
4	代謝異常					各栄養素別代謝疾患を学習し理解する					
5	循環障害					局所性循環障害を学習し理解する					
6	循環障害					局所性循環障害・全身性循環障害を学習し理解する					
7	アレルギー反応					アレルギー反応の種類と特徴、例を学習し理解する					
8	炎症					炎症の特徴、炎症にかかわる細胞、炎症の種類を学習し理解する					
9	中間確認テスト					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
10	腫瘍総論					腫瘍の特徴を理解する					
11	腫瘍					悪性腫瘍の特徴、転移を理解する					
12	中枢神経系疾患					脳卒中、変性疾患、脱髄疾患などを理解する					
13	中枢神経系疾患、抹消神経疾患					脳腫瘍などを理解する					
14	先天異常・遺伝疾患					遺伝疾患、染色体異常症を理解する					
15	期末テスト解説					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕 中間確認テスト＋期末テスト合計100点満点で59点以下を不合格とする。						〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	1	開講区分	後期	担当教員 山本 敏之 先生			
授業科目名				必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
基礎理学療法セミナー											
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
本校の専任教員として学生教育に携わる理学療法士が、学生に臨床現場に必要な身構え・心構えを身につけてもらうために前期で学んだことの知識とこれから臨む臨床現場での学び方を統合する科目である。臨機応変とセラピストがなぜ何のためにアプローチを行うのか多職種連携も含めて専門職業観を養ってもらいたい。											
〔到達目標〕 臨床現場実習で求められる観察力・検査遂行力ができるようになる。											
〔使用教材、参考文献等〕 理学療法評価額 改訂5版 PTOTのための測定評価 ROM測定 第2版						〔準備学習・時間外学習〕 講義での実技時間は短い。各自教室をとり自主練習を実施すること。 PT、患者、評価者のグループを作り行うこと。					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	総論 肩関節 屈曲・伸展					関節可動域測定法の意義・目的・注意点・測定の流れ・順序・ゴニオメーター使い方を理解し実践できる。					
2	肩関節 屈曲・伸展・外転・内転・外旋・内旋					肩関節の角度測定と注意点、ゴニオメーターにより関節可動域を正しく計測することができる。					
3	肩関節 水平屈曲・水平屈伸展・外旋・内旋					肩関節の角度測定と注意点、ゴニオメーターにより関節可動域を正しく計測することができる。					
4	肘関節 屈曲・伸展・前腕回内・回外・					肘関節・前腕の角度測定と注意点、ゴニオメーターにより関節可動域を正しく計測することができる。					
5	手関節 背屈・掌屈 撓屈・尺屈					手関節の角度測定と注意点、ゴニオメーターにより関節可動域を正しく計測することができる。					
6	肩甲帯 屈曲・伸展・挙上・引き下げ					肩甲帯の角度測定と注意点、ゴニオメーターにより関節可動域を正しく計測することができる。					
7	頸部 屈曲・伸展・側屈・回旋					頸部の角度測定と注意点、ゴニオメーターにより関節可動域を正しく計測することができる。					
8	復習・中間確認テスト					筆記試験にて効果判定を実施、それにより自分が理解できていない箇所を把握する。					
9	股関節 屈曲・伸展・外転・内転					股関節の角度測定と注意点、ゴニオメーターにより関節可動域を正しく計測することができる。					
10	股関節外旋・内旋 膝関節屈曲・伸展					股関節の角度測定と注意点、ゴニオメーターにより関節可動域を正しく計測することができる。					
11	足関節 背屈・底屈・内返し・外返し					足関節の角度測定と注意点、ゴニオメーターにより関節可動域を正しく計測することができる。					
12	体幹 伸展・屈曲・回旋・側屈 上肢 手指屈曲・伸展(第2～第5指)					体幹・手指(第2～第5指)の角度測定と注意点、ゴニオメーターにより関節可動域を正しく計測することができる。					
13	上肢 母指撓側外転・掌側外転・母指屈曲・母指伸展(MCP/IP)					上肢(母指)の角度測定と注意点、ゴニオメーターにより関節可動域を正しく計測することができる。					
14	復習 総括					PT/患者/試験官にわかれ繰り返しROMの復習をする					
15	復習 総括					PT/患者/試験官にわかれ繰り返しROMの復習をする					
〔評価について〕 中間確認試験・期末試験とする。評価は筆記試験で行う。筆記試験は中間確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。。						〔特記事項〕 年度末に実技試験を実施する。					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	1	開講区分	後期	担当教員 岩本 大志 先生			
授業科目名				必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
理学療法評価概論											
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
理学療法士として急性期から回復・慢性期まで幅広い臨床経験のある講師による授業である。理学療法の対象となる障害の範囲と性質及び各障害に対する理学療法評価の原理・信頼性・妥当性を検討する。											
〔到達目標〕											
理学療法評価の総論と一般評価事項、形態測定、関節可動域測定方法が理解できるようにする。											
〔使用教材、参考文献等〕 実践 理学療法評価学 医歯薬出版						〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習してくること。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	オリエンテーション 総論 評価の意義・目的 国際障害分類、時期と目的					理学療法士が対象となる障害の概念を理解できる。					
2	評価の尺度と妥当性					障害に対し何処までを評価するのかを理解する。					
3	感染症総論と衛生スタンダードプリコーション					感染症による標準感染予防策を理解できる。					
4	記録と病歴のとり方、意識障害・バイタル測定					評価における情報収集からバイタルサインまでの流れが理解できる。					
5	形態測定(総論) ランドマークの触診					実際に身体を使ってランドマークを触診する事ができる。					
6	形態測定・肢長の実技					四肢長の形態を測定することができる。					
7	形態測定・周径の実技					身体各部の形態を測定することができる。					
8	中間確認試験					試験により効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
9	関節可動域測定(肩甲骨・肩関節)					関節可動域測定(ROM-T)の必要性和肩甲骨・肩関節の測定まで実測ができる。					
10	関節可動域測定(肘・前腕・手・手指)					上腕の肘～手指までのROM-Tの実測ができる。					
11	関節可動域測定(肩甲骨・上肢)の復習					グループで各々ROM-T(肩甲骨・上肢)を測定できるようになる。					
12	関節可動域測定(股関節・膝)の復習					グループで各々ROM-T(股関節・膝)を測定できるようになる。					
13	関節可動域測定(足関節・足部・足指)の復習					グループで各々ROM-T(足関節・足部・足指)を測定できるようになる。					
14	関節可動域測定(下肢)の総復習					グループで各々ROM-T(下肢)を測定できるようになる。					
15	期末試験 解説					試験により効果測定を行い、ROM-Tを把握し、技術練習の必要性が理解できる。					
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は中間確認試験(50点)と期末試験(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。						〔特記事項〕 授業内だけでなく自主練習により技術向上に努めること。 難しい手の動きがあれば授業内で担当教員にアドバイスをもらうこと。					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅰ部	学年	1	開講区分	後期	担当教員 樋口 美幸 先生			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	演習	時間数 (単位)	30 (2)	授業回数	15
動作観察法演習									

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

理学療法の現場経験豊富な講師が本科目の講義を指導する。リハビリテーション医療職として必要な運動機能に対する正しい知識を学ぶ、また運動機能との関連性を理解しながら実際の動作介助誘導や起居動作指導のための基本的な手技のポイントを学習する。

〔到達目標〕

運動学バイオメカニクスの基礎(姿勢と構え、支持基底面と重心、テコの原理など)を理解する。またそれらと実際の動作との関連性を理解する。基本的起居動作の動作介助法、動作指導のための基本的手技のポイントを習得する。

〔使用教材、参考文献等〕

随時、印刷物とVTRにて提示

〔準備学習・時間外学習〕

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	ボディメカニクスの原則・起居動作について＋問題演習小テスト	起居動作概要と支持基底面と重心、テコの原理など動作に関連するボディメカニクスについて理解する。
2	動作のボディメカニクス・起居動作について＋問題演習小テスト	起居動作概要と起き上がり、立ち上がり、歩行動作のボディメカニクスについて理解する。
3	姿勢変換のポイント・起居動作について＋問題演習小テスト	起居動作概要と姿勢変換介助のポイントについて学習する
4	移乗動作のポイント・クラインフォーゲルバツハ運動学の基礎＋問題演習小テスト	移乗動作介助のポイントに付いて学習する。運動を構成するテントクル運動とブリッジ運動について理解する。
5	起居動作の指導法①＋問題演習小テスト	起居動作の指導法について学習する
6	起居動作の指導法②＋問題演習小テスト	起居動作の指導法について考察し意見交換をする
7	姿勢制御と臥位アプローチ＋問題演習小テスト	姿勢制御の基本と背臥位・側臥位・腹臥位へのアプローチについて学ぶ
8	寝返り動作の評価とアプローチ＋問題演習小テスト	寝返り動作の評価と治療アプローチについて学ぶ
9	起き上がり動作の評価とアプローチ＋問題演習小テスト	起き上がり動作の評価と治療アプローチについて学ぶ
10	座位の評価とアプローチ①＋問題演習小テスト	座位の基礎知識と評価の視点を学ぶ
11	座位の評価とアプローチ②＋問題演習小テスト	座位への誘導アプローチの視点を学ぶ
12	立ち上がり動作の評価とアプローチ＋問題演習小テスト	立ち上がり動作の基本知識とアプローチについて学ぶ
13	立位の評価とアプローチ＋問題演習小テスト	立位の基礎知識とアプローチについて学ぶ
14	歩行の評価とアプローチ＋問題演習小テスト	歩行の基礎知識とアプローチについて学ぶ
15	期末テスト、学習内容の総復習	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

〔評価について〕

評価は小テスト＋期末筆記試験で行う。筆記試験は小テスト合計点(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

講義は運動学で学んだ内容と実際の動作や介助誘導との関連性を特に理解するよう努めること。毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。配布プリントにて授業を行う。毎回授業毎に小テストを実施する。